

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 平成26年 5月29日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 牧 草 一番草の収穫・調製のタイミングは、飼料の栄養成分、収量に大きく影響します。生育ステージを観察し、適期収穫を行いましょう。
- ◆ 飼料用トモコシ 雑草防除のため土壌処理、生育期処理を行い、収量確保・サイレージの品質向上を目指しましょう。
- ◆ 暑熱対策 ここ数年、夏場の気温が高く推移しております。乳牛の場合は気温が21℃に達したら送風機を回し始めましょう。また、本格的な暑さが来る前に十分な暑熱対策を準備しておきましょう。

## 牧草

### 1 生育状況

4月中下旬にかけて平年よりも降水量が少なかったことから、牧草の生育が遅れている地域もみられます。

### 2 収穫

#### (1) 1番草の収穫適期

図はオーチャードグラスの1番草の収量と栄養価の推移を示したものです。生育が進むにつれ収量は増加しますが、消化率、可消化養分総量(TDN)、蛋白質含量(CP)は減少します。収量と栄養価のバランスを考慮して、『出穂始めから出穂期』に収穫を行いましょう。目安は1m四方で出穂本数が2~3本(出穂始め)から40~50%(出穂期)です。

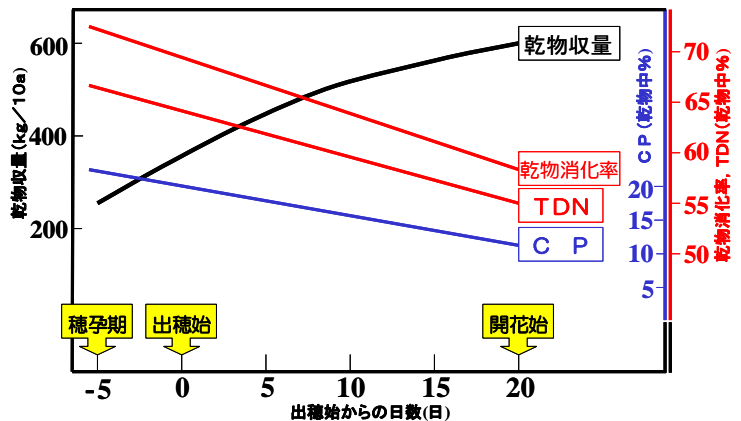


図 1番草収量・栄養価の時期的推移(オーチャードグラス)

#### (2) 刈取り高さ

牧草の刈取り高さは、2番草以降の再生力と収量を決定する重要な要因です。低刈りは再生力が悪くなり、高刈りは収量減少につながります。地際から10cmを目安に刈り取りを行いましょう(だいたい握りこぶし1個分の高さ)。

#### (3) サイレージ調製

ア 原料草の予乾が不十分だと、養分の流出や不良発酵の原因になります。調製方法ごとの目安として、ロールバールサイレージで水分50~60%、タワーサイロやバンカーサイロ等で水分65~70%となるよう、予乾を行いましょう。

イ 土壌の混入は不良発酵の原因となります。作業スピードを落とし、圃場の凹凸に注意しながら収穫作業をしましょう。

ウ ロールバールサイレージに調製する場合、ロール成形後密封までに時間が大幅に経過すると、品質低下につながります。ロール成形後は必ず当日中に密封作業を行いましょう。

#### (4) 乾草調製

良質な乾草を調製するためには、水分を20%以下に落とすことが大切です。水分が高いと、カビの発生による品質の低下だけでなく、発熱、自然発火にもつながります。天候を考慮し、晴天が続かない場合には、サイレージ調製を行いましょう。

#### (5) 収穫後の追肥

2番草の生育を促進するため、刈取り後直ちに追肥を行います。施肥量の目安は、10a当たり成分量で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgです(草地化成212だと25kg/10a)。

## 飼料用トウモロコシ

### 1 生育状況

5月上中旬の日平均気温は、平年と比較して高く推移しており、5月に入ってから日平均気温が10℃を超える日が継続しています。中旬から下旬にかけて飼料用トウモロコシの播種が各地域で進んでいます。

### 2 雑草防除

雑草の繁茂を防ぐには、早期の発見と防除が不可欠です。土壌処理でうまく除草が出来なかった場合は生育期処理が必要です。雑草の種類によって、効果が期待できる除草剤が異なるので、圃場の雑草の種類を確認のうえ、適切な除草剤を選択しましょう。除草剤によって散布時期が定められているので、使用方法（時期、回数、留意事項等）を必ず確認してください。

## 暑熱対策

近年、猛暑が長く続く傾向にあり、受胎率の低下など影響が出ています。また、暑熱により呼吸数が増加し、無駄にエネルギーが消費されます。最近の研究によると乳牛は21℃（かつ湿度60%）から暑熱ストレスを感じ始めるそうです。乳牛の場合は気温が21℃に達したら暑熱対策を始めましょう。

### 1 輻射熱の遮断や遮光

屋根に当たった日光による輻射熱で牛舎内の温度が上昇します。遮熱塗料やドロマイト石灰などを屋根に塗布することで、輻射熱を低減できます。また、寒冷紗等で西日を遮ることも有効です。

（1時間の西日は体温を10℃上昇するだけのエネルギーがあります）



写真1 牛舎屋根への石灰塗布



写真2 寒冷紗による遮光

### 2 送風

牛舎内に気流を作ることで、牛の体感温度を下げるができます（風速2m/秒で8℃体感温度が低下）。換気扇を設置していない場合や台数が不足している場合は、新たな設置も検討しましょう。牛舎の構造や飼養状態によりリレー換気、トンネル換気、ダクト換気等、適した換気方法を選びましょう。

また、すでに換気扇を設置済みの場合、ホコリやクモの巣があると換気効率が落ちるだけでなく、電気代の増加にもつながります。今のうちから掃除をしてすぐに使えるよう、準備をしておきましょう。



写真3 天井の低い牛舎はトンネル換気が有効です。

### 3 給水施設の整備

最も重要な暑熱対策は、牛の飲水量を確保することです。十分な飲水量を確保するため、配管を太くすることや、ウォーターカップ改修、吐水量が多いものへの交換も検討しましょう。また、水槽のこまめな清掃も飲水量確保に有効です。



写真4 配管を太くすることで一度に十分な水量を供給できます。

次号は6月26日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。